

Kyoto University Museum  
Academic Film Expo 2009

京都大学総合博物館 学術映像博 2009

2009年8月5日[水]—12月13日[日]

京都大学総合博物館 

開催時間=9時30分~16時30分(入場は16時まで) 休館日=月曜日・火曜日(平日・祝日にかかわらず)

入場料=一般 400円/大学生・高校生 300円/中学生・小学生 200円 ※20名以上団体割引あり ※70歳以上の方・身体障害者手帳をお持ちの方は無料

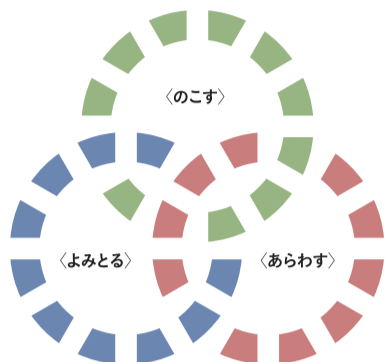
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Tel.(075)753-3272 <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>

協力=シャープ株式会社、京都駅ビル開発株式会社(京都劇場)、(社)京都府歯科医師会

# 京都大学総合博物館学術映像博2009

Kyoto University Museum Academic Film Expo 2009

映像はその誕生以来、森羅万象の諸事象を記録・保存し、伝えることで学術研究を支えつづけています。近年の映像機器・メディアの進歩と普及は学術研究をさらに新たな展開に導きつづけています。こうした状況下、本映像博は、研究用の映像と、映像に関わる研究者の実践を広く紹介し、学術と映像の関係を開いて直すために企画されました。常設上映と展示では、日々の研究で生み出され、蓄積され続けている映像群を「学術映像」としてとらえなおし、研究者の映像実践の核である「のこす」「よみとる」「あらわす」をキーワードに披露します。通常は公開しないような研究用の映像も上映します。物語性を見出せそうにないそうした映像に研究の魅力を感じ、知的な探求心をかきたてられることもあるかもしれません。また、本映像博では、多彩なトークショーやワークショップにより、みなさまとともに学術と映像の関係について考える場も設けます。フィナーレでは、「学術映像コンペティション」の入選映像を上映します。全会期を終えたのち、「学術映像」の総体をイメージすることができたなら、今度は、わたしたちの目の前に広がるイメージの宇宙を、学術をたよりに旅することができるかもしれません。本映像博が、映像とわたしたちの未来を見通す手がかりになることを期待しています。



## ◎常設上映プログラム

本映像博では、学内外の学術映像を、「のこす」「よみとる」「あらわす」の視点から常設プログラムとして上映します！常設プログラムの上映は午前10時から12時の間に行います。午後にも上映することはありますが、午後は各特集週間の映像の上映が中心になります。この特集週間の映像は、その特集の終了後に常設プログラムにも組み込んでいく予定です。また、会期中、常設上映プログラムの入れ替えも行います。どうぞご期待下さい！

### 常設上映作品(一部)

『石舞台古墳発掘映像』／『白い大陸を探る(南極エンダービーランド雪氷調査の記録)』『戦いの日常』／『あゆむ』／『MOMOプロジェクト動物映像』／『京の宇宙学』など。

## ◎展示・ワークショップ

### 体感する展示×響きあう空間

#### ●音が喚起する風景(展示)

記憶、そしてフィールドレコーディングの世界

#### ●鏡の中の自己(展示・トーク)

遅れて映る自己は誰？ 認識と「遅れて映る鏡」

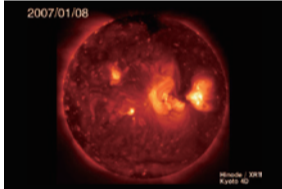
#### ●見えないものを見るI—海洋生物がみる海(展示)

バイオロギング手法とは？ 新しい「海」の姿！

#### ●見えないものを見るII—宇宙の姿(展示)

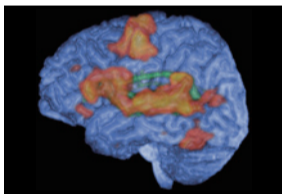
映像化で見てきた激動する宇宙の姿

特設4次元シアターで宇宙空間を体験！



#### ●見えないものを見るIII—映像で見る脳(展示)

普段見ることのできない脳 その構造と機能は？



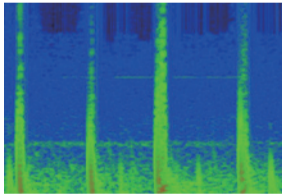
#### ●のぞいてみよう—動物の表情(展示)

見ているようで見えていない動物の姿 動物の表情とは？



#### ●共振する音とイメージ(ワークショップ)

音文化研究×サウンド・ビジュアルアーティスト(Phill Niblock)



## ◎2009年の夏—学術映像博2009

08/05.wed-09.sun

### 学術映像博オープニング!—山・森・自然

08/05.wed 対談「木村大作×大野照文」  
木村大作氏(『剣岳』監督)  
大野照文氏(京都大学総合博物館館長)  
『剣岳』秘蔵メイキング映像上映!

08/08.sat 映画『森の学校』フィルム上映  
原作者:河合雅雄氏によるトークも予定

その他、サプライズイベントも開催予定!  
詳細は学術映像博2009ホームページ  
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/expo/> をチェック!!

08/12.wed-30.sun

### 夏休みだ アフリカ! 南極! 生き物! 科学!

夏の映像博では、総合博物館にいながらにして、アフリカから南極まで研究者のガイド付きで世界を映像旅行することができます。また、生き物の世界や科学を「見る」ことで、子供から大人まで学術を楽しく身近なものに感じていただけます。皆さまのご来場をお待ちしております!

#### 夏のトークイベント・ワークショップ:

- アフリカ食べもの ●アフリカ歌と踊り ●映像で見る南極観測
- 動物撮影ワークショップ ●海洋生物とバイオロギング研究 など

### 9月以降も各種イベント・ワークショップが目白押しです!

- 登山・探検からフィールド医学へ ●人類学映画の歴史・現状・今後
  - フィールドワークで得たドキュメンタリー映画を語る ●雲岡発掘調査記録映像について ●地域とはなにか ●4次元のかたち ●鳥の眼/虫の眼
  - 大学と映画祭、映像の今後 ●生きる骨董品—盆栽の歴史をめぐって
  - 学術機関の紹介映像と社会 ●学術映像コンペティション授賞式
- ほかにもさまざまなイベントを予定しています。ホームページの更新情報を随時チェック!  
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/expo/>

August

01 | 08/05.wed-09.sun | 学術映像博2009オープニング

学術映像博2009の幕開けは、映画監督を招いて行う対談や、研究者によるサプライズトークイベント、ゲストとともに常設プログラム映像をみながらのフリートークイベント、霊長類学者である河合雅雄氏原作の映画『森の学校』の上映など、さまざまなイベントでみなさまをお待ちしています。



02 | 08/12.wed-16.sun | Africaいろどり館: 映像と五感で感じるアフリカ!

広大なアフリカ大陸には、まだまだ知られていない魅力がたくさんつまっています。アフリカの様々な地域でのフィールドワークで見つけたその魅力を、現地でも撮影した映像との協演によるアフリカダンスやお絵かき教室などでリアルに紹介します! 森の伝統的な音楽から都会の若者文化まで、いとどりのアフリカを、探検しませんか?



03 | 08/19.wed-23.sun | 映像で見る南極観測

最近、南極の映像を見る機会は増えてきたが、未だ南極は映像でしか知る機会がない場所である。本特集では、50余年にわたる日本の南極観測活動により得られた様々な映像からなる国立極地研究所製作の映画を上映し、南極の自然や観測活動の様とその変遷を眺めてみたい。併せて、その映画製作に関わった方々に映像に秘められた様々な話をお聞きする。



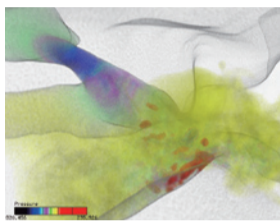
04 | 08/26.wed-30.sun | 生き物をめぐるイメージ—野生動物・海洋生物と動物行動学

動物研究者によってとらえられた野生動物の知られざる姿、最新のバイオロギング手法が明らかにしつつある海洋生物の生態と海洋環境、そして、映像データベースに蓄積することによって見えてくる、さまざまな動物の行動の豊かさについて、特集上映を行います。研究者によるレクチャーやトークイベントも交えて、生き物についてのイメージを刷新しましょう。



05 | 09/02.wed-06.sun | 科学情報の可視化—実験・観測データとシミュレーション技術のつくる映像の世界—

現在、科学における実験観測データは、高性能な装置とコンピュータを利用することで大量に得られるようになりました。また、その得られたデータを正確に映像化する事が、宇宙観測から病態解析、精密部品品の設計などに関わる様々な科学技術の精度向上や共同研究などに役立っています。実世界とシミュレーション技術の融合によって生まれる世界をのぞいてみましょう。



データ提供:大阪大学臨床工学総合研究センター 野崎一徳氏

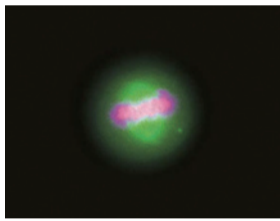
06 | 09/09.wed-13.sun | 登山・探検からフィールド医学へ

1990年に京都大学は、「ヒマラヤ医学学術計画」を策定し、研究者自身が被験者となって「8千メートル低酸素環境が人体に及ぼす影響をもたらすか」といった医学・生理学的フィールド研究をヒマラヤで展開した。実験室や病院を出てフィールドで実施した医学研究が、後の地域在住高齢者に関するフィールド医学につながってゆく。



07 | 09/16.wed-20.sun | 生命科学の動き

近年急速に発展し続けている生命科学の分野では、動画を利用するようになってきました。その目的は様々です。刻々と変化していく現象を捉えるため、実験結果を表現するため、生命科学の基礎知識を教えるため、研究現場の最前線にいる科学者の姿を伝えるため。生命科学の「動き」を体感してください。



08 | 09/23.wed-27.sun | 人類学映画特集

ここでは人類学の一分野である映像人類学の民族誌映画について、古典と呼ばれるものから近年制作されたものまでを、選び上映する。また、特集週間の週末には、ワークショップを開催し、映像人類学の歴史と現状、今後の展開について、民族誌映画制作を中心に考える予定である。



09 | 09/30.wed-10/04.sun | 自然と暮らし

人々の暮らしとそこに息づく技や知恵、文化は、その地の自然のありさまと深い関わりをもっています。日本とベトナムの農山村に焦点をあてた三つのプロジェクトを題材に、それぞれの土地ならではの暮らしの姿をさまざまな「眼」でとらえます。もしかすると、まったく違う土地や人々を結びつける不思議な発見があるかもしれません。

- 水・土・火を生きたる風景:在地の昔と今をつなぐ ●ベトナム中部・フエの森川里海 ●鳥の眼/虫の眼—笠賀・瀨西 仰木映像立体地図—



10 | 10/07.wed-11.sun | 文化・無意識・コンピュータ 映像の創造力

文化情報を取り出し、コンピュータでインタラクティブ映像化することをカルチュラルコンピューティングといいます。山水禅の精神をコンピュータで表現したZENetic Computer、コンピュータが漢字と英語の連想をプロットしていく『漢字.plot』、コンピュータがテキストを拾って俳句を作るHitch Haikuを紹介いたします。



11 | 10/14.wed-18.sun | 地域ドキュメンタリー映画上映—中東・アルジェリア

アルジェリアで失われた映画文化の再興をめざす「カイナ・シネマ」。そのワークショップでは、若者たちがドキュメンタリー映画制作に取り組んでいる。中東研究者がフィールドワークで集めてきた彼らの映画には、アルジェリアの「いま」を見つめる若者たちの視線と感性が息づいている。アルジェリア理解に映画は何をもたらすのか。



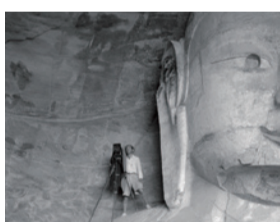
12 | 10/21.wed-25.sun | 映画・映像祭、映像番組と大学の今後

ドキュメンタリー界を牽引する山形国際ドキュメンタリー映画祭、科学系映像祭で最も権威ある科学技術映像祭、科学技術振興機構のサイエンスチャンネルとJSTバーチャル科学館。大学の将来をみえ、大学が学ぶべきことは何か? 学術研究にとって映画とは? 映像作家と研究者の共同とは? 映画祭と学術機関の関係構築はいかに?



13 | 10/28.wed-11/01.sun | 映像と写真でみる東洋学

映像メディアは人文学にも多大かつ多様な影響を与えている。ここではユニークな学風を誇る京大東洋学のなかから映像利用に積極的な実践例として、戦時下、考古学者・水野清一・長廣敏雄らによって実施された中国・雲岡石窟の発掘調査、および、名著『文字の文化史』で有名な東洋史家・藤枝見による敦煌文書研究を紹介する。



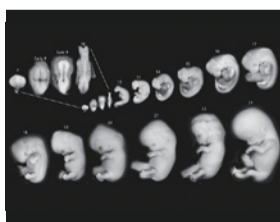
14 | 11/04.wed-08.sun | 地域と地域イメージ

民族文化映像研究所・姫田忠義氏の映画上映・講演・対談と、『仮想地球』研究会(代表:荒木茂)の地域情報データベースの展示を行います。地域研究の重要課題である「地域」概念と「地域研究手法」の練磨について、地域ドキュメンタリー映画と地域情報データベースにおける地域の映像化・仮想化に焦点を当てて考える試みです。



15 | 11/11.wed-15.sun | 医学におけるイメージングとビジュアルイゼーション

近年、観察技術の発達により、体内の細胞・組織、標本などを撮影する高精度イメージング技術や、生体機能の複雑なメカニズムを映像で再現するビジュアルイゼーションの試みは目覚ましい進歩を遂げています。人の健康と疾病に関するさまざまな問題を解明するアプローチとして、映像がどのように利用されているかを見てみましょう。



16 | 11/18.wed-22.sun | さまざまなかたち—4次元の世界

3次元のかたちは4次元のかたちの影になっている、とよくいわれる。もしそうだとすると、地球上の科学から芸術までのあらゆる分野に見られるさまざまなかたちの原点は4次元の世界にある。この4次元の世界のかたちのうち、とくに超多面体や超曲面の3次元空間への投影を、CGアニメーションで見てみる。



17 | 11/25.wed-29.sun | 学術映像コンペティション 優秀作品上映

本映像博2009のフィナーレでは、国内外のさまざまな学術分野から応募された学術映像の入選・準入選作品を上映します。12月10日には、受賞者を招いての授賞式が行われ映像博のクライマックスをむかえます。ぜひご来場いただき、学術映像の最前線をご覧ください!



November

December

12/11.fri-13.sun | 第13回京都大学国際シンポジウム「学術研究における映像実践の最前線」会場:京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホール

本シンポジウムは、関連企画である「学術映像コンペティション」と「京都大学総合博物館学術映像博2009」の総括であるのと同時に、映像実践を通じた文理融合、新たな学術領域の開拓を目指す新たな試みの第一歩として企画されました。映像に関わる研究者の具体的な実践に特に注目しており、9つのセッションでは宇宙物理学や医学、動物研究から人類学、社会学、心理学、情報工学に至るまでのさまざまな映像実践を紹介、考察します。

# Kyoto University Museum Academic Film Expo 2009



Kyoto University Museum  
Academic Film Expo 2009

## ◎学術映像コンペティション

Academic Film Competition

このたび、学術映像コンペティション実行委員会は、「学術映像」のコンペティションを実施いたします。対象映像には、宇宙や自然、生物を対象とした映像、民族誌・人類学映画、社会・文化研究の対象となるドキュメンタリー映画、医学・医療、心理学の映像など、文理を問わず学術研究に寄与するあらゆる映像を含みます。入選作品は「京都大学総合博物館学術映像博2009」(2009年8月5日-12月10日)で上映され、京都大学国際シンポジウム「学術研究における映像実践の最前線」(2009年12月11日-13日)における議論の対象となります。この試みにより、学術研究にとって映像とは何なのか、「学術映像」と他の映像とは何が違うのかなどといった、学術と映像をめぐる議論が活発化することを期待しています。

詳細につきましては、下記URLにアクセスの上ご確認ください。

### 【賞】

- 学術映像大賞 [1本] 副賞 [300,000円]
- 学術映像優秀賞 [2本] 副賞 [100,000円]
- 学術映像奨励賞 [5本]

### 【締め切り】

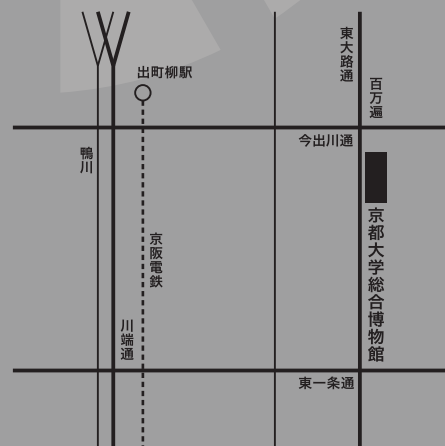
1. オンライン・エントリー：2009年8月31日
2. 提出物(映像、レポートなど)：2009年9月15日

※詳細につきましては、下記URLにアクセスの上ご確認ください。

日本語  
[http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/japanese/event/competition\\_jp/index.html](http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/japanese/event/competition_jp/index.html)  
English  
[http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/english/event/competition\\_en/index.html](http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/english/event/competition_en/index.html)

事務局：学術映像コンペティション実行委員会

住所：〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館  
お問い合わせ：academic-film-compe@inet.museum.kyoto-u.ac.jp  
※本コンペティションについて、電話でのお問い合わせには一切応じません。



### 【交通機関】

- 市バス JR/近鉄京都駅から17・206系統、阪急河原町駅から3・17・31・201系統、地下鉄烏丸線今出川駅から201・203系統、地下鉄東西線東山駅から31・201・206系統、「百万遍(ひやくまんべん)」下車徒歩約2分
- 京阪「出町柳(でまちやなぎ)」駅下車徒歩約15分  
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

## 京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
TEL (075)753-3272 FAX (075)753-3277  
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>